和 まちと人と大輪を楽こう

JC LIFE

2016年 9月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 http://www.ojc.or.jp/ 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL：0848-20-1110 FAX：0848-20-1112 E-mail：ojc@urban.ne.jp Facebook：http://www.facebook.com/isojcnow

夏季講習

8月20日に安芸郡高田にある八ザード広島にて毎年恒例の夏期講習が開催されました。今年は「チームのWAを更にひろげよう！」というテーマで行いました。サバイバルゲームという体験型ゲームを通じて、作戦を作りチームで遂行しながら、その場その場に応じた状況判断を培っていただき、チーム一丸となって「和」を築いていただきました。

当日は仮入会委員を含め多くのメンバーに参加していただき、5人で10チームの構成でリーグ戦を行いました。全員がチーム優勝に向けて作戦を練り実行しましたが、作戦内容で勝敗が左右されていたということがそのあとの検証で感じることができました。検証で優勝チームの作戦はとても戦略的で多くの学びがありました。また、委員会でまとまらず、あえてランダムチームとすることで、新たな交流ができ懇親を深められたと感じております。サバイバルゲームということでケガも心配されましたが問題なく終えることができました。最後美8月というお忙しい時期でまた遠方の地で多くの方に参加していただき誠にありがとうございました。

（記事：未来ビジョン委員会 副委員長 井上 智仁）

定時総会

去る8月20日(土)、三原市大和町の白竜湖リゾートにて8月例会・定時総会が開催されました。

総会では第一号議案において安本専務理事より2017年度理事長予定者に太田雄介君が推挙され、全員の賛成をもって承認可決されました。次に第2号議案においては監事数及び理事数が上程され、監事2名、理事長予定者含む理事22名が全員の賛成により承認可決されました。第3号議案として2017年度監事予定者に川原浩太君と髙垣利将君の推薦され、全員の賛成をもって承認可決されました。続いて理事選挙が行われ厳正なる表開票の結果無事理事予定者が選出されました。定款変更を行われた2016年より、理事の任期が変更となっており、理事予定者として年内の活動を行う事となります。2017年度理事に当選された皆さまは本当におめでとうございます。

（記事：村上 成司）

2017年度理事

太田 雄介君（理事長）

安楽城大作君（重任）

今岡 正英君（重任）

池田 憲泰君（新任）

大西 貴明君（重任）

加度 亮平君（新任）

川原 奨二君（新任）

工藤 孝之君（重任）

高橋 建太君（重任）

武田 大俊君（新任）

田中 良幸君（新任）

中谷 純也君（重任）

中司 昌克君（重任）

原田 知晴君（新任）

日暮 泰広君（新任）

政成 啓行君（新任）

美ノ上仁孝君（重任）

森川 陵君（新任）

宮地晃二郎君（新任）

安本 皇君（重任）

山北 真也君（新任）

吉原 敏兼君（新任）

卒業生スピーチ

河本 清順

私は入会して8年経つんですね、２００９年に入会して、入会のきっかけは川口石油の川口先輩に誘われて、手塚先輩に背ンって背中押されて入会しました。その当時はやはり見渡すと男性ばかりで女性は少ないし、私自信がNPO法人として入ってるので皆さんと馴染めるかとすごく不安がありました。２年目になってもともと知てる小林先輩とかの皆さん、いろんな方に支えられてＪＣで楽しいなって段々思うようになって、段々と卒業してしまうのは正直むちゃくちゃ寂しいです。今日もここに来て、後数回何だなーと思うと寂しいなという気持ちでいっぱいです。ＪＣに入っていろんな皆さんにすごく沢山お世話になっていろんな先輩方に助けられたのですが、例会でシネマ尾道を使って下さったり、夏期講習に皆で映画を見たりとかそういった事で先輩方に活用していただいたり、またブロック大会で友達のモチちゃんを呼んでくれてありがとうございます。モチちゃんも尾道の人に私嫌われてるんじゃないかなって重いがあるみたいですが、活躍出来て良かったと喜んでいました。またモチちゃんがＪＣメンバーの中で誰がかっこいいと聞いたら、発表します。 中司君でした。良かったね。私ＪＣに入って委員長とか理事になってないし、色々皆さんに入会のお話とか、あとシネマ尾道の事とかを皆さんに知っていただきたいのでそう言うお話をさせていただければと思います。私は青和小学校、青和中学校卒業しています。高校は三原高校と言う所を卒業しました。二浪の末専門学校卒業していと思うのですが、おうちが焼肉屋です。焼き肉屋と言って思いつく事と言ったら私の家系はもともと祖父と祖母が日本に戦後やって来た在日朝鮮人の家系です。カモイ屋のキムチとかおいしいのもそのせいです。それで私が在日朝鮮人というのもとても意識し始めたのは高校卒業して京都で学生をしていました。その時に京都で沢山あるイズミヤと言うスーパーがあるのですが、そこで買った総菜の肉じゃがめちゃくちゃ甘くてびっくりしました。何が言いたいかと言うとうちの家庭で出てくるものが部下ウガラシがはいってるんですね。肉じゃがも辛い、さばの味噌にもうちの物は辛いです。全部辛い物で育った私にとって何か高校卒業するまでそこまで外食はしないのでとても遠う味で育ったんだなって言うのを高校卒業して京都で住んでいるときに感じました。京都でそんな中暮らしていたんですが、そのころ丁度ミニシアターブームと言う物が世の中にやってきて、デートは映画館に行くのがかっこいい様な時代でした。そのころに沢山、いっぱい映画館に行くのが好きになって行きました。小林先輩が良くうちの映画館に二日酔いの時に現れるんですが、私も京都で行ったときに同じような事をしてました。二日酔いと言いますか、私も京都の日学校お行きたくないなと思ったらそのまま電車に乗って南会館と言う映画館にそのまんま行っていたので、小林先輩の気持ちはとても分かります。それから帰郷しました。帰郷して6年になります。そのころに駅前にあった尾道松竹、今はシネマ尾道になっている映画館が閉館しました。その時は一般的なニュースとして私も映画館が閉館したことを知りました。特にその時は寂しいなとか映画館復活したいなとか、自分で映画館経営したいなと言う思いはまったくありませんでした。たんたんと月日が流れるにつれて、尾道は映画の町と言われているのに映画館が無いということを沢山の観光客の方とかいろんな方になんでということに言われるようになりました。尾道に好きで来てる自分自身がとても映画が好きだったのでそう言われることがとてもすごく悔しくて、自分の町に映画館がいつかできないかなとどうやって出来るんだろうである時に映画好きの仲間に呼びかけました。それで分からないから実際に映画館をやってる人たちに聞いて回ろうと言うことで実際にその様なシネマ尾道の様なミニシアターがあって、また１９９３年かシネコンと言う物が日本に進出して来てどんどん街中にあった映画館が閉館したこともあったので再び全国的にまた復活させようと、街中に映画館をもう一度とうい動きがあった頃だったので、そうった動きをやっている先輩たちが多かったので、その映画館の調査をして回りました。実際に調査していく中で言われたのが人口が30万人いないとワンスクリーン映画館は成り立たないと言うのが業界で通説であると言うことを知りました。尾道の町だからこそ8年間今映画館が続いてるって言う底力みたいな物を映画館を実際に経営してみて感じています。私自身も正直オープンした時はもつかなと言う思いはすごく強かったです。だけど8年間ごんなにもたせてくれて、そんな尾道という町は素晴らしい町だなというふうに改めて感じています。そして映画館が8年やてＪＣにも8年所属させてもらってる事もあるし、たくさんの同年代位の方々が私よりもはるかに大きい会社を経営してそのプレッシャーとか苦労とかそういった物は図り知れない物だと思います。なので、私は新聞とかいろんなお仕事の方とかでご頑張ってるねとかすごく言われるのですが、みんなが頑張ってるから映画館が成り立っているんだと思います。なのでここに居るメンバーに映画館えてくれて本当にありがとうございますと言う場でこういう風に言いたいと思います。今まで委員長の皆さまとかＪＣの先輩方とかいろいろお世話になりました。最後に村上誠司さんの委員会になれて良かったなと思います。川崎副委員長もお話になりましたとちょっと長くなりすいません。この尾道ＪＣと言う場で成長は変わらず、性別も変わらずほんと尊敬する人にたくさん出会えたなって所は私にとってすごく宝だなと思います。女性メンバーが少ないのは寂しいです。女性メンバーがもっともっといると多分女子会楽しいですよね。やっぱりＪＣって独特の男性社会の中なのでそこに女性が入ると面白いアイディアとか面白い事が沢山起こってくると思うので少ない人数ですけど女性メンバーの皆さんこれからも頑張って下さい。また、女子会も是非呼んで下さい。それでは私の卒業生スピーチは以上にしたいと思います。8年間どうもありがとうございました。

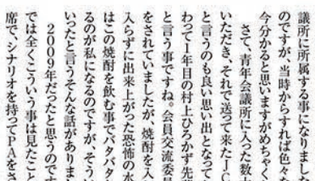
村上 成司

皆さんこんばんは。やっぱり何年経ってもすごく緊張しっぱなしで皆様の前に立って話をするって言うのも紙を見ながら話させていただこうかなと思ったのですが、もう鞄が重い重いと言う事で、鞄の取手がちぎれるじゃないかなと言う思いですっと１年やってきています。10年と昔とは言いますけどもそんなに月日が経った気が全くせず、10年と言う中で色々な経験をしてきたんですけども一番感じるのは体力の衰えです。色々な事をやる中でお腹は出てくるし、山登りなんかすると疲れて、疲れが全然抜けないとかそういった感じで30で入会して40で卒業して行くんですけども、この10年間全然運動は出来なかったというのが実感ですね。私だけがそんな感じなのかも知れませんが、尾道青年会議所ではあまり１年、１年関係なく皆さんと接する事が出来たのではないかなと、そういう気はずっとしています。入会のきっかけですが、１番私がいつもさらっと言ってはいるのですが、お仕事でお伺いする事がありまして机の上に手帳がポンと置いてあったのを目ざとく見つけてしまいまして、これ何ですか？と言う所から始まりまして、その１時間後位だったと思いますが、うーとら神社の永井さんが来られて、そのまま説明をされ、その説明を鵜呑みにして当然の様に目の前に出されている仮入会申込書にサインをしたと言う形で、志願兵と言うことでいつも私は誘われずに入ってしまったので皆様が誘われて入ると言うのがどんな物なのか全然分からないまま青年会議所に所属する事になりました。入前で話をするのが苦手な部分をあるのですが、当時からすれば色々な部分で成長出来たと思っているのですが、今分かると思いますがめちゃくちゃ緊張しています。

さて、青年会議所に入った数十年前、平理事長の時にＩ－Ｃパンチをつけていただき、それで送って来たＩ－Ｃ生活ですがもう、国際ホテルの例会の席で、シナリオを持ってＩＡをさせてもう所で、シナリオを台の上に置いて待っていましたが、シナリオの下に暗転のスイッチがあり、ポンと手を置いた瞬間に暗転ですね。もう会場が真っ暗、何も見えない、誰がどこに居るか分からない、ライトの一つも無い、ボタンがどこかも分からない、と言う状況で暗転と言う事ですね。会員交流委員会の懇親会で焼酎をよく西本先輩が話をされていましたが、焼酎を入れたコップに氷を入れすぎて水がほとんど入らずに出来上がった焼酎の水割り、８：２事件ですね。当時のメンバーはこの焼酎を飲む事でバタバタと倒れて行くと言う良く聞く話の基となるのが私になるのですが、そういった事もあって皆さん順次開打ちをしていたと言うそんな話がありました。

２００９年だったと思うのですが、阿部理事長の時に私が知りえる限りでは全くこういう事は見たことが無いんですけども、国際ホテルの例会の席で、シナリオを台の上に置いて待っていましたが、シナリオの下に暗転のスイッチがあり、ポンと手を置いた瞬間に暗転ですね。もう会場が真っ暗、何も見えない、誰がどこに居るか分からない、ライトの一つも無い、ボタンがどこかも分からない、と言う状況で暗転と言う事ですね。会員交流委員会の懇親会で焼酎をよく西本先輩が話をされていましたが、焼酎を入れたコップに氷を入れすぎて水がほとんど入らずに出来上がった焼酎の水割り、８：２事件ですね。当時のメンバーはこの焼酎を飲む事でバタバタと倒れて行くと言う良く聞く話の基となるのが私になるのですが、そういった事もあって皆さん順次開打ちをしていたと言うそんな話がありました。

２００９年だったと思うのですが、阿部理事長の時に私が知りえる限りでは全くこういう事は見たことが無いんですけども、国際ホテルの例会の席で、シナリオを台の上に置いて待っていましたが、シナリオの下に暗転のスイッチがあり、ポンと手を置いた瞬間に暗転ですね。もう会場が真っ暗、何も見えない、誰がどこに居るか分からない、ライトの一つも無い、ボタンがどこかも分からない、と言う状況で暗転と言う事ですね。会員交流委員会の懇親会で焼酎をよく西本先輩が話をされていましたが、焼酎を入れたコップに氷を入れすぎて水がほとんど入らずに出来上がった焼酎の水割り、８：２事件ですね。当時のメンバーはこの焼酎を飲む事でバタバタと倒れて行くと言う良く聞く話の基となるのが私になるのですが、そういった事もあって皆さん順次開打ちをしていたと言うそんな話がありました。


村上 忠正

みなさんこんばんは。改めまして、卒業予定者の村上でございます。この場に立てる事の喜びを、まず皆様に熱く御礼申し上げたいという風に思います。ほんとうに、これまでここに居させて頂いてまず始めに感謝の気持ちを皆様に伝えたいなと思い、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。今日ですね、私が、過ごしてきた10年間のＪＣ生活をですね、ありぶ事なく皆様に伝えようと思って、一生懸命シナリオを書いてきました。そして、今岡委員長が迎えに来てくれて、このシナリオをさらと取ってきたりでもしてくれましたら、なんと、九月に登る白馬の登山計画を持ってきてしまいました。どうやって話そうかと思いながら、緊張のあまり昨日大阪で四時まで呑んでしまいまして、何というように気を付けてねと常に言っておりました。そう言った事もあったのですが国際ホテルの石原さんに助けていただいて事なきを得たと言うような状態で、そう言った事があったのも当時の阿部委員長はお分や汗もんだったんだろうなと、今となっては思います。

２０１１年は理上先輩の社会活動委員会。２０１２年、麻生委員長、本田副委員長こちらの拡大研修委員会、はたなか先輩の55周年実行特別委員会。徳永委員長の情報ネットワーク委員会。ううううう顔く街づくり委員会。島田委員長の地域教育実践委員会。そして今年度は総務広報委員会の委員長として務めさせていただいておりますが、色々御変させても らっておりますが、10年間大変お世話になりました。1番感じている事は、皆さんから言われますが、理事を早めにしていただく方がいいのかなと言う風に今は感じております。自身の環境で理事と言うのが難しかなと感じておられる方もおられるかも知れませんが、色々御迷を起こしながら私でも何とか出来ている。実際私の職業ですが、なかなか説明が難しく、いつも何をしているのと言われても、これと言うのが説明し難い職種をしておりまして、最近では弱電設備工事業、兼事務機器商と言う事でひとくくりにすると何か違うなと言う気もしますが、そういった設備屋さんはしんや君も含めてそうなんですけども、設備屋と言うのは電話がかかって来たとしたら、お客さんが困ってるから電話して来ている。と言うことがほとんどで、電話を取らないと言う選択肢が当時の僕にはありませんでした。困っている人からの連絡をそのまま取らずに、かけ直しもないと言うのは自分の中で難しい選択肢で、そういった仕事の事情もあり、早い段階で理事になると言う決断が出来ないままズルズルして来ていてこの卒業の年となって何とか皆さんの後押しもあり、やってみようかな、やりたいと言う意識に変わって言って今に至っております。会社では今となっては居ても居なくてもあってもなくても無い、と言うような感じで皆に扱われて、今までにこれやっといて、電話掛けといてとか言った事を言っていましたが、当たり前の様にそうさと皆が行っており、結果としていい流れになってるのかなと思いますが、卒業したらあとのとばっちりが怖くてですね、ここ使われてそうな気もするので、大分しんどい思いをする気もするんですが、自分でもできれば30までに理事を済ましておけば良かったのかなとも今では思っております。この卒業と年に理事をするとか言う事ですが、今年は総務広報委員会でルーティーンが多いのですが、皆さんに協力していただいて頑張っておるのですが、卒業生の皆さんのふいんきと、理事をしている私から見た自分のふいんきでは追いつめられた感が全く違う。そう言った部分を是非今の年に経験するというのは少し勿体ないし、最後の年はんなゆうりしてると言うイメージがあったのでそう言う経験をした方がいいのかかなと思っています。なので皆さんも理事をするのであればしておいた方が身のためかなと言うふうに思っております。私もも少し卒業まで何か力がありますが、総務広報委員会と言う場、会の運営に携わろうえで大変重要なポストになりますので、卒業例会は副委員長にお願いすると言うことでその部分に関しては全く気にしていない言う事ではないのですが、少し気が楽です。すでに９・11と３が月しか無いですけども、この残りの青年会議所、ＪＣ生活を皆様宜しくお願い致します。

も話せないかもしれませんけども、まずみなさんと、登山計画のどちらがいいかという議論を…2つの案があるんですけど、どっちのルートで登ろうかという事で、まあ、それは冗談ですけど。シナリオを忘れてしまったので、適当に話をさせていただければと思います。私のこの十年間ですね、お話をしたい事たくさんあって、お名前を挙げたい方いっぱいいて、それぞれの話をしていきたいんですけども、時間が限られておりますので、三部構成に分けて、お話をしたいというふうに思います。題材はですね。題材っておかしいですね。テーマは忠正…あ、失礼、ごめんなさい、間違えた。「キレ正のこの十年」ということで、話をしたいと…あまりうけなかったですね。もっと、こう、ワッとくるかと思ったんですけど。駄目だな。10年やってきてこんなもんですね。新入会員にちゃんと見とけよっていった自分にプレッシャーをかけて全く負けてるっていう…情けないな、と思いますけども。キレ正の10年を話していきたいと思いますけども、第1部のキレ正ですね。入会3年目位のことだったと思います。当りかまわず誰かにキレてて、僕の言動だとか、行動だとか、そういうことで少しでも注意をうけるならば、すぐキレると、いうような私でした。私の主推薦者でもある某先輩ですね。一緒にブロックの委員会に出向させていただきましたけれども、とある事で、ブロックの会議に来ないと合同委員会でチクリと言われて、すぐそっちの外に出して、キレたりとかですね、色々していました。これあんまり個人名出すとあれなんで、こういった事は書かないようにしていただきたいなと思いますけども、まあ、私、セクレタリーをしていた時期もありましたが、まぁ、そんな事もあって、某理事長に暴言を吐いてしまったりとかですね、いうふうな事もありましたし、当りかまわずほんとに、自分に対して何かをいう人に対しては、キレてたというか、反抗してました。この三年間というのは、ただ単に自分に自信が無いから、誰かに何かを言われるのが嫌だから、言われたとしたら、「俺はそんな人間じゃねぇ」と、お前が悪いんだということで、ただ、単に虚勢を張っていたという、所謂子供だったんだなぁと、この三年間は思います。ほんとにご迷惑をかけて、それながらも色々支えてくれてた先輩方には今では心から感謝してますし、心からおわびを申し上げたいというふうに思いますけども、そんな入会当時のですね、数年間を過ごしていたというような状況でした。私もそんな、バカ正がなんで、少し、JCに戻ってこようかと思ったかというと、私の人生の中でも非常に大きな経験だったんですけども、東日本大震災、これを、盛岡から帰ってる間の車中で被災をしました。福島県を入ったところですかね、そのあたりの長いトンネルの中で、地震が起こりまして、22時間新幹線の中で、避難を待っていたという経験をさせて頂いて、いろんな事がその中でもありました。非常に不安でした。車内のアナウンスでは、仙台は壊滅したとか、東京が燃えてますとか、津波で多くの方が亡くなったとか、そんな断片的な情報しか入ってこなかったので、非常に不安。隣にいらっしゃる女性は、仙台ご出身の若い女性だったですけども、親兄弟と親戚と、友達とも連絡が取れませんと、なんとかスマホで、情報取れませんかという事で、非常に不安がられていましたけども、そんな女性に対しても、優しい事一つもいってあげられない、自分もそこに居ましたし、なんとか早く、この場から逃れたい、逃げたい、帰らして欲しい、そんな思いで、その場を待っていました。22時間後に、トンネルを歩いてでて、歩いて出たところにJRのバスが何台も待っててくれていまして、それで、東京の、まぁ、東京というか、埼玉県の大宮まで、向かった訳ですけども、その途中の中で、大宮に向かう途中の駅が、再開したと、JRが、そこで動き出してますというような情報を聞いたんでけども、じゃぁ、俺はそっちに連れていってくれと、大宮じゃなくて、どこでしたかね。大宮の少し手前だったと思いますけども、その駅が近いから、電車で帰った方が早く帰れるから、そこに連れていってくれよと運転者さんに言ったんですけども、そんな口調じゃないですけども、連れていってくれませんかと、言ったら、その運転手さんは、福島の方でした。自分の家は半壊したと、家族も残してきてる、そんな状況で、皆さんを大宮まで届けるのが私の仕事なんだから、我慢していただけれませんかと、いうふうに、笑って私に言ってくれた、このときに、どれだけ自分が、バカだったのかなと、いう事も思い知りましたし、本当に申し訳ない気持ちで、大宮まで帰って、私は日曜日にこっちまで帰ってきたと、ただ単に、私は帰れば良かったんですけど、私の周りに居る皆さんは、いろんな事を抱えながら、自分のことだけじゃなく、周りのことも心配しながら、いろんな事を、活動されてたんだなぁと、自分に対して、すごく、こう情けない気持ちを持ちました。なんとかそれを恩返ししたい、自分を変えたい、そんな一心で、福島県の南相馬、そのあたりにボランティアに単身、何度か行きまして、その方が福島だったので、お名前もわかりませんし、顔もわかりませんし、でも、福島の一番厳しいところが、南相馬の方だったので、そちらのほうに行って、少しでも、自分の力を、役立ててみようと、いう事で、ボランティアに参加しました。そこでも、いろんな教えを頂いたというかですね、被災をされた家の方に行って、泥出しをして、そこにいらっしゃった娘さんですかね、若い方でしたけども、おにぎりを出してくれて、白い何も入ってないおにぎりでしたけど、今の私達にはこれくらいの事しかできませんし、でも、気持ちなので受け取って下さいと、言われて、食べたおにぎりの味は、今でも忘れませんし、ほんとに感謝をした、美味しかったなぁというふうに思います。そういう経験があってですね、JCと関係のない所でボランティア活動をずっとしていたんですけども、ある時、坂本先輩ですけども、お前がそこまで思うんだったら、JCでやってみろよと、こういうふうに言って頂いて、JCで震災関連の事をですね、やらしていただくようになったと、いう事です。これからが、第二幕のキレ正の開幕なんですけども、それから、その次の年ですかね、私、委員長になりまして、震災の復興関係のことをさしていただきたいという事で、色々と事業をさせていただきました。気仙沼の子供さん達、太鼓のグループを尾道に呼んで、皆さんに見て頂くとか、一緒にバーベキューをするとか、向こうで海が壊されていたので、こちらの海で海水浴をして頂くとか、楽しんで頂きたいという思いで、気仙沼の子供達を呼ぼうという計画をさせて頂いて、実行させて頂いたと、この間にも、もう卒業されましたけども、佐藤さん、何回もブチ切れました。佐藤さんに対して。例会で、五月例会くらいだったと思いますけども、みんなメンバーが居る中で、「お前帰れ」とか、そんな事を言いながらブチ切れたりとか、林さんにブチ切れたりとか、事務局のですね、机をバーンと叩いて、なんなんこの人みたいな感じだったと思いますけども、ブチ切れたりとか、残り数限りなくいろんな人にブチ切れているので、話が長くなるので割愛しますけども、そんな委員長時代を過ごした一年だったと思います。でも、これは、先程言ったただ単に子供で、バカだった自分のキレ方ではなくて、自分のやりたい事がありすぎるから、それを人に分かって欲しいから、熱くなってしまう、自分の言葉がついつい熱くなってしまって、それが白熱をしてしまって、それが所謂喧嘩になってしまう、キレたように見えてしまう、そういうふうな事であって、誰かを攻撃していたというわけではありません。二年目の副委員長やってた時、その時は、委員長は安楽城委員長でしたけども、ようキレました、ここにも、ほんとに。顔を合わせるたびに怒ってましたし、坂本さんにも何回か咬みついた事もあったと思います。それも、でも、やはり安楽城委員長が委員会メンバーのために、自分のために、尾道のために、何かをしたいんだっていうふうに思いがあるから、僕もそれに対して、熱くなる。安楽城委員長に対する言葉もどうしてもこう白熱をしてきてしまう。だから、キレたように聞こえたのかもしれません。どうでもいいんですよ、キレてる内容なんて。安楽城委員長が、夏期講習をして、大山で総会をするか、尾道で総会をするか、小野委員長が当時総務の委員長だったので、二人で意見が決めきれないと、その二人を宮徳さんに呼び出して、おどりゃぁ、すどりゃあでキレている私がそこに居ました。たまたま料理をもって入ってこられた沼田さんのお母さんが、なんなんこの人達は、というふうな目で見られていましたけども、それは、その当時、坂本さんがいきなり、たけやさんが居たり、色々いらっしゃいましたけども、先輩たちいらっしゃいましたけども、あえて、僕は言わせて頂きますと、二人の中で議論が出きりゃあいいんじゃないんですかねと、いう事でキレさして頂いたので、けっして本心でキレた訳じゃありません。後悔をしないようにして頂きたいなと、いうことで、私の第二部のキレ正っていうのは、そういう形でキレていったと、あえてキレていた、計算ずくでキレていた…な、なんですか?その失笑は?そんなはずねぇだろみたいな。自分ではそう思っています。自分なりに考えて行動して、熱くなってしまうので、言葉がどうしてもああいう風になってしまう。でもそれは、仲間のために自分が出きることと、思って、計算ずくでキレていたというような状況です。去年も副理事長という仕事をさせて頂いて、ちょっと長くなってますけども、ごめんなさい。副理事長という仕事をさせて頂いて、田中委員長、島田委員長、島田委員長にはほぼキレませんでしたけども、田中委員長にはもう、よくキレていました。途中居なくなったりしましたけども、それは僕のせいじゃないんですよ。病気をされて、という事で一時は療養されていたという事ですけども、そのとばっちりを食らったのが、山本委員長ですね。誰もキレる相手がいないので、とりあえず、しんやにキレとこうということで、はけ口になってました、僕の。終いにはなんかあの、両委員会のグループLINEを退会するとかですね。なんでか知らんけど、忠正さんキレてるよと、グループLINEも退会したと、いうようなそんな事件が去年の11月、みんなの前から姿を消してやろうと思ってですね、腹が立ちすぎて、ということもあって、というのは冗談です、腹が立ちすぎてっていうのは。その当時、田中委員長の委員会がですね、ようやく自分達の委員会で、一つの事業をまとめていこうという風に、まあ、そういう機運というか、雰囲気になってました。で、僕はどうしてもそこに居ると、何か口を出してしまうので、出来たら引きたかったんですね。でも普通に引きたくなかったんで、取り敢えずキレて引いてやろうと思って、その方がみんなザワザワするかなと思ってですね、そういう事をさして頂いたと、これぞまさしく計画をもってキレていたキレ正だという風に思います。すばらしいなと自分でも思っております。そんな第二部は計算ずくのキレ正、そして第三部は、今年ですけども、卒業予定者と監事という役をさして頂いて、キレない忠正、仏の忠正かなという風に自分でも思っております。全然うけませんねこれ。すいません、あと五分くらいで終わろうと思いますけども、ほんとにこの一年はですね、それまで過ごしてきた時間・仲間との絆、そういうのを感じる一年でもありますし、大切な一年だなと、感じています。おそらくこの9年間が無ければ、この仏の忠正は生まれないと思いますし、こういう考えには至らなかったと思いますけども、もう一回誰かにキレたいなと、最後、相手はしんや君ぐらいがいいかなと思ってるんですけど。また、何かやって欲しいなと思いますけども、あと、4ヶ月ありますんで。理事会で、他の人が質問しあっているのにキレたりとかですね、そんな事もありましたので、いつどっからやりが飛んでくるのか分かりません。あと、残りの理事会僕全部出ますから、みなさん理事の方は覚悟して頂いて、どっかでキレたい僕がうずうずしてますから、楽しみにしておいていただければなと思います。新入会員の方も今日いらっしゃっているので、私の話が参考になるかどうか分かりませんが、そういう風に過ごしてきた私のJC生活ですけども、一度は退会届を書いたこともありましたし、ほんとうに、こんなとこに居たってしょうがねぇと、やめてやるって思ったこともありました。それはほんとに第一部のキレ正の時代でして、今はそんな事は思ってません。なんでそういう風に思えるようになったか、この10年の結果ですけども、一つの答えしか私の中ではない。何でそういう風に思えるようになったか、それはここに仲間が居たからです。こんなに素晴らしい仲間がここに居て、自分の事を認めてくれて、そして、支えてくれて、応援してくれて、怒ってくれて、気を使ってくれて、そういう事をしてくれるから、わたしは、この1年で、気持ちよくこの尾道青年会議所というのを、卒業できるんだと思います。いろんな事業があって、それぞれやはり、町に役立つ事、自分に役立つ事、会社に役立つ事あると思いますけども、私の中でJCというのは、何が一番大切かというと、仲間です。こんな素晴らしい仲間を僕はもう見つける事はできないと、心から思います。おそらく、自分が死ぬまでにですね、間は変らない心の友ができましたし、いろんな事が話せる素晴らしい仲間がこんなにも多く居る。僕の本当にかけがえのないこの10年間の財産だと思います。いろんな悩みもあると思いますし、ここに、JCに居てですね、得るものがあるのかと、悩んでいる方もまだいらっしゃると思いますけども、これだけは信じて頂きたい。仲間が出きるということ、それが自分を育てるということ、それだけを皆さんに信じて頂きたい。皆さんがいつか私のように、またここに立って、卒業生スピーチをした時に、同じことが、感じれるはずだと思います。仲間を大事に、これから色々と大変だとは思いますけども、それぞれのJCで、JC生活を頑張って頂きたいなと、いう風に思います。ほんとうに、こんな私をですね、この10年間支えて頂いて、言葉では表わせない感謝の気持ちをいだいております。これからじっくり皆さんに時間をかけて、4ヶ月ですけども、気持ちを表わしていこうと思います。そして、私のホームグラウンドであるこの尾道青年会議所が、来年もその先もずっと、皆さんの力でより輝きを増すように願っております。色々あると思いますけども、頑張って下さい。以上です。

いつかこの日が来るのだと思って今まで卒業生スピーチを聞いておりましたが、とうとう自分がスピーチする立場になりました。少し寂しい気持ちもありますが、お付き合いください。

私は子どもの頃からあまり物事に拘りがなく、特に目標もなく生きてきました。高校受験も両親の勧めるまま、私立高校を受験して、大学進学の際も父親の夢であったアメリカ留学を父に強く勧められ、あまり行きたくもないアメリカの大学に行きました。結果的に20歳の時に父が病に倒れ、辞めて帰って家業を継ぎました。それから間もなくして、JCの勧誘が来ましたが、さすがに包丁もまともに握ったことのない状態でJCに入会するのは良くないと思いお断わりしました。

それから5年過ぎ、2002年26歳になる年にJCに入会いたしました。入った最初の年は全く訳が分からず楽しくはなかったですが、「黙って3年間は全ての事業に出なさい」と先輩に言われ出席しておりました。2年目に桑田委員長率いる総務渉外委員会になってJCが楽しくなってきました。その頃、同期のメンバーが次々と広島ブロック出向の声が掛かる中、自分は誰も誘って貰えないことに悔しく感じていました。とりあえずは今の委員会を精一杯頑張ろうと思い、委員会には100%出席しました。その成果もあり、翌年の2004年には円福寺さんと日本JCに出向させて頂き、全国の色々な街を訪れ、全国のJCメンバーの情熱を感じて大変良い経験をさせて頂きました。その時に日本JCのメンバーの志の高さに感化され「やるからには理事長を目指す」と初めて自分で目標を立てました。その年は尾道ではブロック会員大会が開催され、忙しい1年となりました。そして私にとっての初めての理事選挙では残念ながら落選しましたが、2005年理事長の宮地宏治さんに理事ではない私をセクレタリーに選んで頂き、1年間よく怒られましたが頑張りました。

しかし、その頃の理事会は日付が変わるぐらい熱い答弁を交わすこともあり、最長で午前2時半まで白熱した議論をしていました。正直この中で自分はやっていけるか自信を無くして委員長は絶対できないと思い、先輩に相談したことがありました。そうすると「じゃあ、いつになったら自信がついて出来るわけ?」と言われ、その時いつもの困難から逃げる悪い癖に気づかせて頂きました。その一言で気合を入れなおし、翌年地域教育実践委員会の委員長を務めさせて頂きました。当時独身でもちろん子どももいなく、教育の事業といっても何をすればいいのか全く頭の中になく困っていた時に、理事長から子ども達に当時テレビで話題だった「ダッシュ村」のような体験する事業をご提案頂きました。それを何も考える事なくそのまま自分の事業としてやろうと思い、室合同委員会で委員会メンバーに発表しました。理事長が言っているのだから、面白そうと言って賛同してくれるものとばかり思っていました。ところが「なんでそんな事業をしないといけないのか?」と問いただされ言葉を失ってしまいました。それから苦悩の委員長生活が始まります。委員会の前の日の夜は熟睡できず、1時間ごとに目が覚め、朝方になると胃液が込み上げ嗚咽が止まらない状態で委員会を開催するプレッシャーに押しつぶされそうな毎日を送っていました。何をやるか決まらず、4月ぐらいまで迷走していた時に川原一展さんの「沼ちゃん、食に係わる仕事をしているんだから、食育に注目してみたら。」という一言で助けてもらいました。食育というキーワードでどんどん事業の内容が決まり、子供たちが食べ残した給食や家庭の生ごみで畑の土づくりをして、野菜を育て収穫する「ハタケにイコー」を開催しました。4か月間続く事業で大変でしたが、15年間のJC活動の中で最も思い出になった1年となりました。

2007年は魅力あるビジョン策定委員会の副委員長をさせて頂きました。50周年のこの年はJCに入って仕事上の最初の問題が起こりました。前年の委員長の時にあまりにもJCに出すぎて、その負担が他の職人に大きく降りかかった事で職人の一人がついていけないと言われ、辞めてい

裏面へつづく▼

きました。当然現場の仕事が回らなくなり、50周年記念式典を最後にJCに出ることが困難になり、理事長を目指すどころか、委員会すら全く出られなくなり、従業員が一人辞めたぐらいで全くJCに出られなくなるなんて理事長になることは小さい商売をしている者には無理なんだなと諦めていました。

そんな時に平理事長が「沼ちゃん、俺は格好つける為や名誉の為に理事長したんじゃないよ。俺みたいな小さい会社の社長でもやる気があれば理事長は出来るという事を後輩たちに示したいから理事長になったんだよ。だから、沼ちゃんもがんばれ!」と激励して下さいました。平さんは本当にすごい人だ、ちょっとでも平さんに近づけるよう頑張ろうと決心しました。数か月後、新しく職人も入り、少しずつ委員会にも顔を出せるようになりました。

そして、2008年教育ビジョン委員会に配属され、久々に役職のない状況で少し、仕事と家庭に比重を置き1年過ごしました。

翌年の2009年は最もよくお酒を飲んだ1年でした。ブロックゴルフ大会実行特別委員会の副実行委員長を仰せつかり、石津実行委員長の下、麻生副実行委員長とタッグを組みブロックゴルフ大会の運営と新年宴会、家族会、ゆかた会など企画しました。事業の前の日は前夜祭、事業終了後は打ち上げ、次の日は反省会と連日のように飲みました。特にブロックゴルフ大会の前日は午前3時まで飲み、5時にゴルフ場集合で寝ずに行ったのを憶えています。

突拍子もない企画を出しては盛り上がり、とにかく楽しい1年でした。

2010年は鍛治川理事長の下、事務局長を務めさせていただきました。前年からのお酒を飲む習慣がなかなか抜けず、セクレタリーの2人にはよく面倒を見てもらいました。「事務局長セクレタリーじゃないんですけど…」と怒られながら楽しく過ごさせて頂きました。その年は一般社団法人に移行する準備をする年でもあり、新しい会計ソフトの「バランスマン」に苦労させられました。高橋司直前事務局長のおかげで何とか切り抜けることが出来ました。

2011年は東日本大震災が起こり、3月12日の例会に講師としてお招きする予定だった佐藤こうじ議員が来られなくなり中止になったり、理事会で反対が出て議案が通らなかったりと例年にないことが多く、監事としていろいろ判断に困ることがありました。この年に私が配属された西本委員長の次代の宝育成委員会の委員会旅行は15年間で最も凄まじく、生涯忘れることのない思い出となりました。

そして2012年は未来ビジョン委員会の副委員長をさせて頂きました。この時に2度目の危機が訪れました。中堅の職人が独立を目標に違う店に代わりたいと申し出てきて3月で退社すること決まりました。同時に2人の従業員も家庭の都合により退社することになりました。募集はするもののなかなか見つからず、月日だけが過ぎて行きました。この年は松江との姉妹都市提携式で松江に行ったり、復興支援の事業で気仙沼に行ったりと県外に出ることも多い年でした。気仙沼の子どもたちを尾道にお招きし、尾道の子どもたちと交流する一大事業を抱える中で2度目のスリープが始まりました。今回だけどうしようもなく副委員長の代理を佐藤敏章さんにお願いして姿を消すこととなりました。この時自分のJC生活は完全に終わった。もう復帰は無理かもしれない。迷惑かけるくらいなら退会しようと考えました。しかし、責任から逃げているだけで自分が楽になるために退会しようとしている事に気づかされ、今度こそ逃げる人生はもうやめようと思い、踏みとどまりました。

そこから、ほとんど出席することなく、長いスリープ生活が始まりました。このまま終わっていいのかと自分の中で自問自答を繰り返し月日が過ぎていきました。

そして2014年の石森委員長頃から、ようやく職人が入り、少しずつ例会、委員会に出られるようになりました。2015年は宮坂さんのビジネス開発委員会でスーパーエブリィの岡崎さんをお招きして、類人猿セミナーやランチェスターの法則を学ぶセミナーなど青年経済人として大変興味深い内容の事業を行い、勉強になる1年でした。

そしてラストイヤーの今年は魅力開発室の副理事長を務めさせて頂きました。3年もブランクがあり理事選挙の当選も危ぶまれる中、麻生理事長に「副理事長のポストを空けているのでよろしく」と電話を頂いた時は心の底から嬉しかったです。正直、当分JCに中核に係わってないだけに自信がありませんでしたが、できる限りの120%の力を出して麻生理事長を男にするぞと心に誓いました。結果的には3年半のブランクは大きく、失敗もしてご迷惑をおかけしましたが、わが子のように思っている魅力開発室の両委員長の頑張りに助けられ何とかあと4か月のところまで来ることができました。本当に感謝の気持ちで一杯です。とはいえまだ4か月ありますので引き続き気を引き締めて最後まで頑張りたいと思います。

本当に長いようで短かった15年間でしたが青年会議所に本当に育てていただきました。目標をもってそれに邁進する姿勢や出来ない理由を考えて困難から逃げてばかりの自分に立ち向かう勇気を持つことを学ばせていただきました。

現役の皆様には、ぜひ目標を持って頂き、自分で自分の限界を作らず、少し自分に負荷をかけていただき、頑張って欲しいと思っております。決して大きい目標でなくて目先の手が届きそうな目標でも良いと思います。目標をもって一つ一つ達成していき、また新たな目標を設定すること、その繰り返しが成長していくことだと思います。そして失敗を恐れず、どんどん挑戦して下さい。結果も大切だと思いますが、本当に大切なのでそこに至るまでの過程だと私は思います。失敗しないように一生懸命考えて行動したこと、努力したことが必ず経験となって身についていくと思います。仮に失敗してもそれは成功への準備だと思いますので挑戦する勇気を持ってこれからも青年会議所活動に邁進していただきたいと思います。長々となりましたが、以上で私の卒業生スピーチとさせていただきます。本当に15年間ありがとうございました。

新理事研修

8月31日(水)、尾道商工会議所にて、2016年度新理事研修が開催されました。講師として第56代理事長を務められました村上伸一先輩をお迎えし、理事としての心得等についてご講演いただきました。また、新任の理事予定者の方を中心に『理事としての目標、あり方』をテーマに3分間スピーチを行っていただきました。先輩のお話を聞き、2017年度の理事予定者全員の前で目標を語ったことで、これからの青年会議所活動への意識が向上できたのではないかと思います。懇話会では新理事の皆様がこれからの事について熱く語り合う姿が見られ、理事同士の絆をしっかりと深めていただけたのではないかと思います。2017年は創立60周年という節目の年となります。この研修で学んだ事を活かし、理事として素晴らしい年にしていただければと思います。参加された皆様、本当にお疲れ様でした。

(記事:まちづくり推進委員会 委員長　中司 昌克)

大人が描く夢の地図

8月28日(日)に浄土寺研修道場にて親の教育推進事業を行いました。

大人が描く夢の地図と題しまして、ドリームマップを作成して頂きました。ドリームマップとは夢や目的を具現化するツールで、講師に一般社団法人ドリームマップ普及協会の田岡氏をお呼びし、半日ドリームマップを通じて、大人になっても夢や目的を持つ大切さを感じて頂き、またお子様に対しても夢を奪うのではなく、応援する側にまわる大切さなど講義をして頂きました。

当日に別の部屋で小学生の部が行われており最後は合同での発表をしました。お子様の保護者も何名か参加があったのですが、その方からは子供の目標や夢を聞く事が出来た、また大人になって、初めてまた夢を具体的に考える事が出来たなど感想を頂きました。

当日はメンバーにも何名か参加頂き会場も楽しい雰囲気で事業を行う事が出来たこと、また動員に対してもご協力いただきましたこと誠にありがとうございました。

委員会メンバーにも設営から片付けまでご協力頂きました。

皆様ありがとうございました。

(記事:地域教育推進委員会 委員長　大西 貴明)

歯は命

歯科医師 鍋島 巧 コラム

今回はフッ素についてお話しします。もう、だいたいの方はご存じだと思いますが、フッ素は、歯に塗るとムシ歯になりにくくなり、さらに、初期の齲蝕であれば、再石灰化によって治癒が期待できるものです。現在、フッ素入の歯磨き粉を使う事は常識といってもよく、外国の論文を見ると、「フッ素を使わないこと」が「ムシ歯の高リスク」であると言われていて、「歯磨きをしない」事と同列に扱われるようになってきました。日本でもフッ素が入ってない歯磨き粉を探すのが困難な程普及してきました。フッ素が入っているものには、箱などに書かれている成分一覧に「フッ化ナトリウム」或いは「フルオロリン酸ナトリウム」と書いてあります。さらに、フッ素の応用は他にもあります。その一つが、フッ化物洗口剤による洗口です。この洗口剤は日本では一般には1製品しか販売されていません。歯科医院では、保険適応外の薬剤(一般品の濃度2培)として処方できますが、保険外ということもあり、対応している歯科医院はあまりないと聞きます。しかし、今年度から、歯科医院でのフッ素塗布の保険適応範囲が広がり、高濃度フッ素(歯磨き粉の9培濃度)を塗布できる機会は増えています。さらに、フッ素を全ての人に応用しようという試みが「水道水のフッ素添加」です。カナダ等フッ素添加している国は多いのですが、日本では実現できる雰囲気は今のところありません。主な理由が、「歯には良くても体の中に入ったら有害だから」という事です。確かにフッ素を妊娠中の母親や永久歯までは生え揃ってない子供がフッ素を過剰摂取すると「斑状歯」という柔らかくてボロボロの歯が生えてきます。単に、「有害だから」と言われても、そもそも水道水にはすでに体に有害な塩素が添加されてますから結局有益性のどちらをとるかという事なんだと思います。ですからこの問題はよく議論していただいて決めたらいいと個人的には思います。

(記事:鍋島 巧)

編集後記　8月も無事おわり、9月になりましたが、そろそろ卒業生は自身の卒業を意識されているのではないでしょうか?JCLIFEにも卒業生スピーチが毎月掲載されるようになりますが、卒業生のスピーチには入会から卒業までの思い出がたくさん詰まり、言葉にできないような思いや感動があふれています。本年度はまだまだ終わっていませんが、JCLIFEをよろしくおねがいいたします。

(記事:村上 成司)